

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090400211		
法人名	有限会社 ワンダー		
事業所名	グループホーム おむすび苑		
所在地	北九州市小倉北区赤坂一丁目7番18号		
自己評価作成日	平成24年10月10日	評価結果確定日	平成25年11月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/40/index.php?act=on_kouhyou_detai_2013_022_kani=true&ji_gyosyoCd=4090400211-00&PrEfCd=40&VersiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成25年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

赤坂の住宅街に昨年4月に開設しました。1階は小規模多機能型居宅介護・2階と3階はグループホームを併設した事業所です。建物は地域との交流スペースとして利用居室や入居居室以外に、おむすび公園・おむすびサロン・おむすびルームがあります。医療面では、提携医と24時間の医療体制で連携しています。また、浴室は1階は炭酸泉・2階は機械浴・3階は個浴と 個々の状態に応じた入浴が可能です。今後もますます地域密着型の施設として地域に根付いた活動をしていきたいと思ひます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームおむすび苑」は小規模多機能事業所と併設した複合施設であり、今年で開設2年を迎える。上から見ると三角形のおむすび型をしたユニークな作りは、住宅街の中にあっても、周囲の環境に溶け込んでおり、地域にも開放する「おむすびサロン」は交流スペースとして、住民にも親しみをもって利用してもらっている。開設当初は手探りだったが、少しずつ地域に知ってもらい取り組みを進めて、徐々に存在感も持ち始めており、今では町内会長とも協力しながら地域行事にも参加するなど、活動が実を結んできた。また、サロンを利用した活動や、夏に行った夏祭りには参加者も増えて、用意した食材がなくなるほど非常に盛況で喜ばれた。地域の方も気軽に相談に訪れてくれるようになり、特徴的な形と名前が目を引くことで、それがきっかけとなって利用にもつながった事もある。小規模多機能と合わせて地域の高齢福祉を支える拠点として、今後も発展が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	新人職員には入社時オリエンテーションで説明を行い配布しています。理念はホール、職員の目につくところに常に掲示しています。異動で来た職員や時間差による出勤の職員にも周知できるよう努めています。	開設時に代表が作り上げた法人理念、事業所の理念があり、各フロアに目につくように掲示して、朝礼時、申し送り唱和することもある。特に「おむすび苑8カ条」によって具体的な実践方針を掲げ、管理者やリーダーから指導をすることで、進んで積極的なサービスを提供する事につながってきた。	法人理念や事業所方針の共有がされているが、その中でも特に「おむすび苑8カ条」が具体的な行動指針としてわかりやすいので、職員の行動にさらにつながっていくように、集中、選択して唱和や共有を進められてはどうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動や校区の花見、運動会にご利用者の方と一緒に参加しています。苑の夏祭りでは、地域の方にチラシを配布し参加を呼び掛けています。避難、救出、消火訓練への呼びかけで地域の方に参加して頂いています。	年に2回の地域清掃や、市民センターのサロン会、地域のお花見会などに参加し交流している。町内会も協力的で、地域を招いた夏祭りではバナナのたたき売りの実演など手伝ってもらい、出店も喜ばれ大盛況だった。交流センターも開放しており、カラオケ会や老人会に活用されている。日常的にも気軽に立ち寄られ、散歩時に挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて地域の方に理解してもらっています。会議では民生委員さんより、困難事例の相談を受けそのまま地域包括の職員の方に報告する場所になっていません。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の家族からの意見や相談等の解決報告をしています。	2カ月毎に開催し、自治会長、町内会長、有識者などが参加される。行事報告のほか、地域連携に関しても話され、活発な意見や質問、地域情報の提供を頂く事も多い。ご家族全員に議事録を送り、報告をしており、外部評価報告も行った。市にも案内を出したが、参加はなかった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議に参加される地域包括支援センターの職員との連携を常に図りながら協力を頂いています。職員より書道の作品展参加の声掛けを頂いています。	市役所の担当課とは、何かあった時の相談を気軽に行っている。介護保険申請時などは窓口へ訪問して行い、地域包括支援センターとは関わる事が多い。地域包括からは利用者の作品展のお誘いを頂く事もあった。主に管理者がケアマネージャーが担当し関わりを持っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置し定期的に話し合いを設けています。身体拘束廃止に向けての外部研修にも参加し、事例検討も行っていきます。	拘束に該当するケースはないが、新たに身体拘束廃止委員会を組織直し、具体的事例を元にして研修を行っている。エレベーター操作は複雑だが、玄関施錠はなく、階段からは自由に入出入り出来て、要望がある時は見守りや付き添って外出してもらう。万が一の離設時も地域と連携し合って対応する体制を作っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	老人福祉法に基づく措置の方を受け入れた事で虐待について職員一同学ぶことが出来ました。常に言葉の暴力や精神面での苑内での虐待が見過ごすことがない様に努めていきます。		

自己・外部評価表H25(GHおむすび苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し管理者は制度について理解しております。必要時には、対応できると思います。今後は苑全体で制度の理解を進めていきます。	現在までに対象となるようなケースはなかったが、外部機関とも連携しながら協力をしている。近々成年後見の方を受け入れる予定もあり、管理者は権利擁護の外部研修を受講し、伝達を行った。パンフレットや資料なども準備され、資料閲覧も行っている。	今後の受け入れに備えて、職員の理解を深めていくために、計画的な研修や勉強会の開催が行われていくことに期待したい。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は一時間かけてきちんと口頭で文書を読み上げ質問等を聞きながら十分な説明を行っています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やその家族からの苦情には苦情を受け付ける窓口を設置している。面会時には意見や要望を聞くように努めています。	フロアのカウンターに意見箱を設置しており、意見用紙を渡したり、面会時に直接意見を聴く機会も多い。家族も協力的で外部評価アンケートの回収率も高かった。意見があった時は申し送りでも共有し、全体での改善の意識をもって話し合われている。	面会などで意見を聞く機会はあるが、表面化してこない意見を引き出す取組として、家族アンケートの実施や家族会の開催、意見箱の効率的な活用などに関して検討されることに期待したい。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員会議を設置し職員の意見や提案を責任者会議で聞いてもらう機会を設けています。また意見や提案がある時はその都度代表者に聞いてもらっています。	利用者ごとのミニカンファレンスを随時開くほか、各職員が所属する委員会活動でも話し合い、2、3カ月に1回事業所全体の会議が開かれる。管理者とも個別に話し易く、あがった意見に関しては全体で話し合い、出来る人がすぐにとりかかって改善につなげている。	年に2回自己評価を行っているが、上長からのコメントや客観的な評価も加えることでさらに効果的な活用がされることに期待したい。また、委員会活動の再編成が計画されており、接遇など実践的で定期的な活動がなされることも望まれる。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の労働時間や勤務の変更等職員の個々の事情を聞いてくれ、働きやすい環境作りに努めています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別、年齢、資格の有無に関わらず十分配慮しています。職員の資格の取得や研修に関しても協力し合っています。	年代・性別を問わず採用され、20～60歳代の男女の職員が働き、実習生からそのまま入社に至ったり、無資格で入って資格取得するケースもある。それぞれが何らかの委員会活動を担当し、能力を活かしている。シフト調整も希望を聞きながら、休憩時間も配慮されており、働きやすい環境をつくっている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	苑内での人権研修・啓発活動の取り組みはしてませんが、個々に人権研修に参加しています。	企業、法人理念とともに、倫理綱領を掲示しており、入社時のオリエンテーションでも伝えている。管理者が消防団活動の一環で、年に2回外部の人権学習を受けている。	管理者が外部の学習会を受講しているため、事業所でも伝達を行ったり、全体でも人権教育に取り組まれることに期待したい。

自己・外部評価表H25(GHおむすび苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度は外部研修の機会を増やし、身体拘束廃止や認知症(レビー小体)・医療関連の研修に参加しています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協議会に入り同業者の交流の場が増えネットワーク作りや勉強会に参加しサービスの質の向上に努めています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にアセスメントと要望を聞き取り、安心・安全を確保出来る様に努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にアセスメントと要望を聞き取り、安心・安全を確保出来る様に努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人が今必要としているサービスが何かを見極め、支援しています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の役割、生きがいを見つけ職員と共に意欲ある生活が送れる様に支援しています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密に取り合い、本人と家族の絆が途切れる事のない様に支援しています。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメント時に、生活歴や趣味・交流関係等を聞き取り、いつでも面会に来て頂けるよう働きかけをして、絵手紙や電話のやり取りができるよう支援しています。	入居時に本人とご家族とのアセスメントで聞き取った情報から、趣味活動で書道や編み物などをしてもらったり、好きな事を続けてもらっている。自宅外泊の支援をしたり、家族と協力して遠方に外出したりもする。入居者が作った絵葉書に職員が一言添えて、手紙の支援も行う。	

自己・外部評価表H25(GHおむすび苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや一緒に生活する中で入居者同士関わりを持ち、楽しく過ごして頂けるよう努めています。手を引いて散歩したり困っている方の手助けをしたりとても微笑ましい姿が見られます。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方の家族への連絡も耐えることなく電話・お便りを出して縁を大切にしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には家族、ケアマネから情報を聞き本人の希望や生活歴等考慮し検討しています。入居後も常に本人や家族の意向の把握につとめています。	アセスメントの他、3か月毎にモニタリングで意向の再確認を行っている。意志疎通が難しい方に対しては、家族とも意向を確認し、日常の動作や表情を見ながら本人の意向をくみ取っている。楽しんでいる時やふとした時の表情の変化から好き嫌い、人間関係を読み取って把握に努めている。	モニタリングによって、状態の変化を読み取っているが、定期的なアセスメントがなかったので、再アセスメントによって情報の追加や変化を反映させていくことが望まれる。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	馴染みの家具や衣類はそのまま使用して頂きその人らしい空間作りを行っています。個々の趣味や嗜好も把握に努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれの個々に合わせた一日の過ごし方を大切に有する能力を維持出来るよう努めています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の状態の変化に伴いモニタリングし、担当者会議を行い介護計画を作成しています。担当者を決め、毎月課題とサービス提供の在り方を確認しています。	ケアプランを元にした日課表があり、担当者が毎日の実施状況を記録して月末には総括をしている。職員は1~2名の入居者を担当し、現場の意見から日々の記録とケアプランを連動させている。本人とも協力して、自分で1日の日課を管理している入居者もいた。全体で情報を共有しながら入居者それぞれにあったプランを検討している。	全体で情報を共有しながらケアプランの作成につなげているが、担当者会議に家族の参加や、意見の照会を行う事でさらにチームケアが進められていくことに期待したい。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの記録を個別に行い、申し送り職員間で共有しています。		

自己・外部評価表H25(GHおむすび苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町内会長と連絡を密にして地域の老人会の方をお誘いし、苑を開放してリフレッシュして頂けるよう支援しています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老々介護の為ご主人の入居に伴い、奥様の今後一人で在宅生活が継続できるよう取り組んでいます。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科は2週間に1回の往診で急変時もすぐに対応しています。その他歯科も2週間に1回、訪問マッサージも受けれる態勢をとっており必ず家族の同意を得て適切な医療を受けられるよう支援しています。	本人と家族の同意を得たうえで、入居時に事業所の提携医をかかりつけ医としてもらい、事業所で往診を受けている。専門科などの通院は基本的には家族にお願いしているが、必要があれば事業所から支援している。医療情報はその都度、事業所内と家族とも共有する。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々の健康管理と日々の気づきを看護師とかかりつけ医に伝え適切に対応しています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、病院連携室と情報交換を行っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に事業所の方針を家族に説明しています。連携医との相談の上、重度化に対応し適切な医療が受けられるよう体制をとっています。	今までに事業所で看取ったケースはないが、希望があれば最期まで出来ることは支援する方針であり、入居時に説明し了承を得ている。提携医とは24時間の連絡体制があり、緊急時の対応を行っている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応後は対応が上手くいかなかった点等すぐに話し合い改善しています。AEDの使い方、心臓マッサージの訓練を行い、緊急時に対応できるようにしています。		

自己・外部評価表H25(GHおむすび苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3月20日夜間想定避難訓練を実施し非常災害時地域の方の救急要請や避難場所も決めています。	年に2回、消防署とも合同で、総合訓練をしており、内1回は夜間想定訓練を行っている。地域にも協力を呼び掛け、町内会長、自治会長も毎回参加されており、地域の消防活動も積極的で、事業所を避難所としても提供している。スプリンクラーなどの防災設備も完備しており、AEDの設置や救急救命訓練も行う。	地域の避難所としても事業所を提供しているが、備蓄物の確保がなかったため、準備が進められることが期待される。また、新入職員への避難手順の説明を早い段階で体制化されることにも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入社時には、人格の尊重やプライバシーに関する研修を行っています。慣れによる行き過ぎた言動等ないように、管理者は細かく指導を行っています。	入社時のオリエンテーションによって、プライバシーの尊重に関してや、個人情報管理に関する説明・指導を行っている。また、日頃から管理者が気付いた時にも注意しており、職員の意識を高めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望が表せることが出来るよう声掛けしています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家庭的な雰囲気の中で時間に追われる事無く、部屋で過ごしたりフロアに出て来られ談話やレクリエーションに参加されたり個々のペースで過ごして頂けるよう支援しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔でまた、その人の好みが見られるよう支援しています。催し物がある際はお化粧品たり喜んで頂いています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前にはテーブルを拭いて頂き、配膳、後片付け、食器洗いを職員と一緒に楽しみながらその人の力を活かした支援をしています。手作りおやつを機会を設けています。	近隣にある法人のグループ施設の厨房から調理されたものが配食されており、メニューは管理栄養士が作成しておりバランスに配慮されている。以前、行事の時にはハマチの解体ショーを行って非常に喜ばれた。皿洗いや配膳など手伝ってもらうこともあり、おやつ作りや調理レクと一緒に調理することもある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量や水分量等一人一人の状態を観察し食欲低下時は嗜好品を聞き家族の協力のもとお好きな物を提供しています。		

自己・外部評価表H25(GHおむすび苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	往診の歯科の先生の指導のもと本人の状態にあった口腔ケアを行っています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らし一人一人の排泄時間を把握し自立に向けた支援をしています。	排泄動作の自立した方が多いが、排泄チェック表を使ってトイレの時間や排泄状態を毎日管理している。失禁の多い方には、適宜皆で話し合っ、状態に応じて、布パンツやリハパンツなど、本人に合ったものを支援している。情報は日々申し送りで共有し、自尊心に配慮した声かけにも気をつけている。	本人や家族とも協力して、失禁が多い方に対する適切なパット利用や、自立支援に向けた迅速な取り組みが出来るように、委員会の活用や話し合いが行われていくことが望まれる。
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防に努め運動の働き掛けとして午前と午後に苑内歩行に取り組んでいます。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日と時間は決めています但体調不良時や拒否をされた時は日にちや時間帯を変え気持ちよく入浴出来る様支援しています。	2Fは機械浴、3Fは普通浴の浴槽があり、基本的には週2回の入浴を提供している。希望があれば入浴回数を増やしたり、拒否があった際には曜日を変えたりと柔軟に対応もしている。機械浴もあることで、安心して一人でゆっくり入ることができ、普通浴槽も浅めで足を伸ばしてゆったり入浴できる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る時間は個々の希望に応じて安心して眠れるよう支援しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援と症状の変化の確認に努めています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力を活かし洗濯物を干したりたたんだり食器洗い、掃除、新聞取り等役割を決め張り合いのある生活支援をしています。		

自己・外部評価表H25(GHおむすび苑)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	百万夏祭りや正月の初詣でに出かけたり、家族参加のもとお寿司を食べに行きました。日常的には、おむすび公園に散歩に出かけたり気分転換を図り、生き生きとした生活が送れるよう支援しています。	敷地内にある「おむすび公園」は開放しており、気軽に散歩を楽しめ、菜園の世話を一緒にすることもある。毎月個別や少人数でのドライブなどの外出機会ももって、行事の際に市の祭りへの見学もしている。家族と一緒に外出レクを行うこともあり、外食機会ももっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望でお金を所持されている方もおられ使える支援もしていきたいと思えます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話の希望があれば随時対応しています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るさは程よく室内の温度は利用者の要望を聞き調整しています。和室は共用で洗濯物をたたんだりしています。フロアーは季節の花や作品を飾ったり居心地良く過ごせるよう支援しています。	フロアごとにトイレは3か所設置され、うち1か所は職員や家族用に使っている。アロマを利用して消臭・抗菌とともにリラックス出来る香りが漂っていた。フロアごとにテーマカラーがあり2階はグリーン、3階はブルーでさわやかに彩られる。オープンテラスもあり、気軽に外の空気と触れることも出来る。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の時以外は自由な席に座ったりルーフバルコニーの前で仲良く日向ぼっこされたりと思い思いに過ごして頂いています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の調度品は馴染みの家具や使い慣れた物を用意して頂いています。	各居室のドアはスライド式の引き戸で開口部も広く確保され、出入りがしやすい。介護ベッドが事業所によって準備され、入居者はそれぞれに使いやすい家具を配置し、仏壇やテレビなどを持ち込んで自分の空間を作っていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	台所はフロアーの真ん中にあり、いつでも誰でも立ち入りができ、トイレもわかりやすくしています。		